

小倉工業北辰会報

平成21年度

北辰会総会開催される



平成21年5月24日 当番幹事一同

母校創立百十周年を迎える平成二十一年度小倉工業高等学校北辰会総会が、平成二十一年五月二十四日ウエルシティ小倉(九州厚生年金会館・北九州市小倉北区)で開催されました。今年の当番幹事は昭和六十一年および平成十年の卒業生が務めました。

「二十一世紀の礎を築き、世界にはばたけ倉工健児」のスローガンが掲げられた会場で、伊藤学君(昭和六十一年機械科卒)の司会により、開会の辞を小田伯雄副会長(昭和四十四年機械科卒)が述べて総会が始まりました。

まず、平成二十一年度中に亡くなられた方々を追悼して全員で黙祷いたしました。

会長挨拶は、病床の長野正景会長(昭和二十九年機械科卒)に代わって、森一政会長代行(昭和四十一年電気科卒)が行い、百十周年記念事業や今後の運営方針など語りました。

学校長挨拶では、今年四月に八幡工業高校から着任された山本久信校長が、着任挨拶とともに学校の状況報告や今後の取り組みについて話されました。

続いて、このたびは体育後援会長を森会長代行から引き継いだ下田豊二副会長(昭和五十年機械科卒)が、母校運動部の活動状況などの報告を行いました。

来賓祝辞は、昭和六十一年卒当番幹事の恩師が代表して行いました。

今年の永年勤続表彰(現職教職員十年以上)は三名の方に渡されました。

総会議案審議では、森会長代行が議長に推薦された議事が進められることになりました。

坂田智之・北辰会事務局長(昭和三十六年機械科卒)より、平成二十一年度事業・決算報告、平成二十一年度事業計画案・予算案が一括提案説明があり、平成二十一年度会計監査報告を含めての一括審議が諮られ、総会の承認を得ました。

さらに、事務局より役員

追加案が提案され、森一政君の会長代行就任ならびに今年三月に退職された笹原裕明前校長の相談役就任が承認されました。その後、森会長代行、笹原相談役よりそれぞれ挨拶がありました。

母校吹奏楽部の演奏で校歌を斉唱し、専光寺広泰副会長(昭和五十七年工化卒)の閉会の辞で、総会は終了いたしました。

懇親会では開会に先立ち、母校郷土芸能部の勇ましいばちさばきの祇園太鼓、引き続き吹奏楽部の勇壮な演奏が披露されました。

宴は、泉日出夫・当番幹事長(昭和六十一年機械科卒)が当番幹事挨拶を行った後、赤尾正洋・北辰会顧問(昭和二十六年機械科卒)の発声による乾杯があつて、賑やかに始まりました。

酒席での談笑が盛り上がるなか、母校吹奏楽部OBによる懐かしのメロディーの演奏があつたりして、皆さんはとても楽しい時を過ごされていました。

恒例のビンゴゲームが始まりますと、会場のあちこちから歓声があがり、続々と当選者が賞品を受け取っていました。

宴は吹奏楽部OBの演奏で校歌を斉唱後、万歳三唱してお開きとなりました。

小倉工業高校創立百十周年記念式典は、平成二十一年十月三十一日母校体育館で執り行われました。

式典には、県教育庁や市教育委員会および県議会、高等学校・中学校などの関係者の方々、そして全校生徒並びに教職員、父母教師会、北辰会の皆さまが参列しました。

学校長式辞の中で山本久信校長は、「二十一世紀を担う『工業技術者』の心の根幹になればならないものは『人間が自然によって』生かされていること」を認識し、自然を敬い、自分中心、人間中心の考えを抑制する『利他』の精神である」ということを、そして「本校の校訓『真理探究』『質実剛健』『勤労努力』を改めてとらえ直し、自然や他者と共生して、ひたむきに努力する。まさにこれからの時代に最も必要な行動指針であると言える」と述べました。

引き続き、福岡県教育委員会委員・住吉徳彦氏、福岡県議会議員・今林久氏、父母教師会会長・柴田一男氏からそれぞれ挨拶がありました。

記念事業実行委員長挨拶で、森一政・北辰会長代行は、「この記念事業を実施するにあたり深い感銘を受けたことは、先生方の熱心な指導と授業に取り組む真摯な精神、PTA皆様方の献身的な協力、生徒諸君の規律正しい行動とその態度であつた」と述べました。また「創立百十周年記念を在校生として迎えた生徒の皆さんには、自らにして良き伝統を継承し、その時代に対応した新たな伝統を作る、そういう意気込みで将来に向かつて日本の工業高を作り奮闘されることを期待している」と語りました。

来賓を代表して、福岡県公立高等学校校長協会副会長・大下一幸氏が祝辞を述べられました。

そして来賓紹介があり、祝電も披露されました。

感謝状並びに表彰状贈呈では、北辰会顧問・赤尾正洋氏、元北辰会顧問・近藤義隆氏(故人)、前父母教師会会長・中杉正人氏の三名の方に感謝状が、そして第二十三代校長・野口晴氏、第二十四代校長・古賀靖三氏、第二十五代校長・二見八男氏、第二十六代校長・笹原裕明氏の四名の方に表彰状が贈られました。

終わりに、生徒を代表して会長・藤本昂大君(電子科三年)が謝辞を述べました。

福岡県立小倉工業高校創立百十周年記念講演は、平成二十一年十月三十一日、記念式典に引き続き母校体育館にて行われました。

講師は、理化学研究所経営企画部長・中川健朗氏が務められ、「二十一世紀を担う工業高校への期待」という演題で話されました。

「全国各地の工業高校を訪れたとき、それぞれに地域に根差した活動の中で創意工夫して、大きな成果を上げていくことを知って、地域の力を実感した。物づくりは人づくりであり、智慧づくりでもある。」



中川 健朗氏

記念講演

工業高校は期待されている、工業高校は期待にこたえている、工業高校はもともとと活躍できる、ということをもっと信念をもって申し上げることが出来る。倉工生の皆さんについても同じであることを申し上げ、今後のご活躍を期待いたします。

就職状況

就職志望者一六六名

一六六名内定

昨今の経済不況により雇用状況の悪化が取沙汰される中、母校も求人票が激減しました(昨年五三・四・今年二八)が幸い就職志望者全員の内定が決まりました。

・三年生在席 一九五名

・就職志望者 一六六名

・県内 七五名

・県外 九一名

・自己就職者 一名

・公務員志望者 二三名

・進学志望者 五名

創立百十周年記念第十六回オープンゴルフ大会

十月五日(月曜) 創立百十周年記念オープンゴルフ大会が、チェリーゴルフクラブ小倉南(京都郡みやこ町勝山)で開催されました。

母校創立百十周年を記念した大会であり、体育大会の代休日とあつて学校三役(校長・教頭・参事兼事務局長)を始め多数の教職員、前原校長を含め一三一名が参加しました。

絶好のゴルフ日和に恵まれ教職員、同窓生が交流を深め終日和やかにプレーを楽しみました。

創立百十周年 募金のお礼とお祝い

創立百十周年にあたり、記念事業への募金のお願いに對し会員諸氏より寄せられた浄財は、四八一名及び九団体より総額五、一八九、六三〇円となりました。厚く御礼申し上げます。

しかし記念事業を推進するにはまだまだ不足しております。更なる募金をお願いを申し上げます。

募金協力者のご芳名は次号に掲載させていただきます。

《会費納入のお願い》

同窓会「北辰会」が、健全な活動を維持していくには年額二千円の北辰会費です。

北辰会事務局は、今後とも会員各位へのサービスを向上させ、母校の発展のために努力を重ね、事務の効率化と経費節減に努めて行く所存です。

北辰会の健全な活動の基本であります「年会費」の納入を宜しくお願い申し上げます。



祝創立110周年記念式典

母校創立百十周年を記念して建設されたグラウンドメインスタンドの贈呈式が平成二十一年十月二日、当日雨天のため本校グラウンドから体育館に変更された会場で、学校教職員、生徒も参加して行われました。

贈呈者挨拶を、同窓会北辰会を代表して森一政会長代行が行いました。

森会長代行は、グラウンドメインスタンドが山田奨学会と科学研究奨学会の基本財産をもとにして建設されたものであること、そして両奨学会の設立に寄与された先輩たちの母校に対する熱き思いを感じ取っているだけに、この施設を末永く大切に有効に使われることを切望していることなど話しました。

そして、グラウンドメインスタンド設備の鍵一式が、森会長代行から山本久信校長に引き渡されました。

受領者お礼の言葉の中で山本校長は、グラウンドメインスタンドに込められた先輩方の思いをしっかりと受け止め、質実剛健・倉工魂を確かに引き継ぎ、そして更に新しい伝統を作っていくということが求められているなどを生徒に向けて語りました。

続いて生徒代表お礼の言葉を生徒会長・藤本昂大君(電子科三年)が述べました。

グラウンドメインスタンド贈呈式行われる

創立百十周年 募金のお礼とお祝い

